

## 動物たちとの触れあい広場に

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた岩沼市の二野倉地区では今、羊の放牧を行っている。

この地区を地域・世代を超えて交流が行われる「ふれあいの広場」として再生するためだ。



震災や地域の記憶や地域の記憶の風化させないことと同時に、運営・管理を地域住民と行き、生きがいを支援するというもので、岩沼市が公益社団法人青年海外協力協会に事業を委託し行っている。



事業はまだまだ始まったばかりだが、12,000m<sup>2</sup>の敷地に羊を筆頭にヤギ、アルパカなどを放牧する予定だ。

一带は他に交流広場や農園、ドッグランなども整備し、世代を超えた市民の交流の場として活用する。

現在、放牧地の柵を地域住民と協力しながら手作りで進めており、イベント等を通じ地域の子も達が羊と触れあえる機会を提供している。